

日	要理日	番号	報告者名	一報名	生物由来 分名	原材料名	原産国	含有区分	文部 省規	直用 規	販賣元(PT)	出典	概要
													米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があると政府研究者が報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177例が死亡した。今年はこれまで122症例が報告され、カリオルニア州ヒュダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
													米国においてウエストナイルウイルス増殖・媒介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジマカ、オオクロヤブアカイエカ、ヒトスジマカで吸血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血両群、ヒトスジマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では供試したすべてのマウスが12日以内に死に、死亡したマウスからはWNVが検出された。
													近い将来、日本にも侵入する可能性があるため、日本産蚊の室内継代株を用いてウエストナイルウイルス増殖・媒介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジマカ、オオクロヤブアカイエカ、ヒトスジマカで吸血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血両群、ヒトスジマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では供試したすべてのマウスが12日以内に死に、死亡したマウスからはWNVが検出された。
													平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるなどの報告が千葉県赤十字血液センターにあつた。因果関係の確認のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれと塩基配列が一致した。20プールNAT陰性、HBV保管検体個別NAT陰性であつたが、献血者追跡調査により輸血用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。
													平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるなどの報告が千葉県赤十字血液センターにあつた。因果関係の確認のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれと塩基配列が一致した。20プールNAT陰性、HBV保管検体個別NAT陰性であつたが、献血者追跡調査により輸血用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。
													日本赤十字社血液事業本部が開設する安全対策の取り組みと感染症リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日本赤十字血液センターに報告された輸血関連感染症(疑い・症例を含む)の報告件数は749例であった。日本赤の安全対策の実施によりHBV、HCV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなつた。しかし、HCV及びHIVも含め過及調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き継ぎ講じていく必要がある。
													HIV感染、C型 肝炎、B型肝炎
													第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日 シン ポジウム4-2